

事務局だより

1. 1月1日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
41	36	31	30	138名 (Eグループ会員：123名)

12月退会 早川 士氏 (県央)、石橋 忠雄氏 (ベイサイド)

2. 運営委員会より

1月21日に開催された運営委員会では、じゃおクラブ第33回通常総会を、昨年同様オルタ館に於いて対面方式で開催することに決定しました。

開催は2024年5月26日(日)を予定していますが、オルタ館の日曜開館日の最終決定を待って確定となります。2月末頃までにはお知らせできる見込みです。

なお、総会の終了後には、会費制にてささやかな懇親会を行いたいと考えております。

※ 運営委員会の詳細については議事録をご覧ください。

3. 次の運営委員会

日時：2024年3月17日(日) 10:00~12:00 オンライン開催

議長：永井委員、書記：福山委員

会員だより「季節のテーマ」執筆のご参考

会員だより投稿のご参考として「季節のテーマ」の一部(2月から5月)を再掲します。

2月	節分、バレンタインデーなど
3月	ひな祭り・桃の節句、ホワイトデー、お彼岸・春分の日、卒業など
4月	お花見、エイプリルフール、入園・入学・入社、花まつりなど
5月	こどもの日、運動会、ゴールデンウィーク、母の日、お祭りなど

ひとりごと(2回目)

多摩・田園 安藤 文孝

知らず知らずのうちに 80 歳を超え、体は多かれ少なかれ老いてきた。体は 80 年も使った機械なので、修理しながら手当をしながら、人生の晩年を豊かに過ごしたいと思っている。

先日、元の会社主催の OB 会に出席、毎年 OB 会があったがコロナ禍で中断されて 4 年ぶりに実施され、再会した仲間と近況を報告し合い元気をもらっている。感謝！ただし、親しくしていた先輩・後輩が亡くなって寂しい。

さて、私の健康の秘訣は、

- 「じゃおクラブのテニス」

週 2 回はコートに立つ。奥が深くて、ちょっとでも上達しようと思っているが、何年やっても満足することがない。(何でも楽なものって面白くない。)好きなことをやっているから夢中になれる。一年でも長くテニスを続けるために健康でいたい。

- 楽しみながら「ボケ防止」

昨年、自動車を手放し、免許証を返納、電動アシスト自転車を購入(免許証返納証明書で 5,000 円引き)。自転車に乗っていれば、前後左右に目を配り、車や歩行者の動きを確かめながら、瞬時の判断をし、視覚・聴覚・反射神経、それに加えて、バランスをとるためにも脳は働くとのこと。(ただし、自転車事故は増えているので、その点での注意は必要)。脳の専門医から聞いた話。



最後に人生の晩年を豊かに過ごすため心掛けていることは、

自分の不機嫌を人に感染させないように(コロナよりたちが悪い)、楽しげに生きようと心掛けている。今は「おまけのおまけ人生」を歩んでいると思えば気が楽になると考え、今日を生かしてもらっている。感謝！感謝!!。

『希望在心中、生命在脚下』

集団疎開

ベイサイド 率川 清昭

光り輝く初日の出。穏やかな新年を迎えた。ことしは良い年を迎えた。

平和にお屠蘇気分になろうかと思った。突然にグラッと来た、正月早々地震かよお。

『早く避難してくださいッ！』『津波が来ます！海に近づかないでください！』『戻らないでください。高い所へ避難してください!!』テレビが叫びだした。これは大変なことになったぞ。

地震、津波、火災、おまけに航空機事故、災害の年の始まりか？

被災者の救出、停電、断水、雪、寒さ、避難所の生活、平常に戻っていない。

避難所に学校が充てられ教室に避難者が入った。道路も寸断され復旧が進まず、新学期になっても授業が再開されていない。入試シーズンなのに学習に遅れが出ている。

被害の無かった近隣の街に集団避難して授業をすることになり、移動が始まった。

それにつけて思い出した、終戦前の「集団疎開（学童疎開）」だ。戦況が悪化し日本の都市にも空爆が始まったのだ。そこで子供達に戦禍が及ばないように安全な場所に移動させようと学校ごとに集団避難させたのだ。

田舎のある人は親戚へ縁故疎開、ない人は集団疎開する事になった。私は5年生、東京生まれの東京育ち田舎が無かった。集団疎開組になった。4、5、6年生の男子が一緒のグループで3班に分けられ、上級生が下級生の面倒を見ることになった。3年生以下は親元か縁故疎開に、女子は別の地方へ行った。

昭和19年8月、我々渋谷区の小学校は熱海へ。今は観光客で賑わっているが戦時下「贅沢は敵だ」「欲しがりません。勝つまでは」で観光客もなく休業も止む無く学童疎開を受け入れたのかも知れない。我々の学校の入った旅館は高級でなく3階建てだったが、隣の部屋との境は壁でなく話し声は筒抜けだった。襖を外せば団体用大広間なるのだろう。3班がそれぞれに入り学校になった。

今のようにキャンプもなかったし他人と共同生活するのも生まれて初めてだし、不安だし寂しかった。布団の上げ下ろし、食事の後片付け、洗濯もした。自分のことは自分でした。

朝洗顔後に朝礼、東に向かって皇居遙拝、皇后陛下の御製「次の世を担うべき身ぞ逞しく雄々しく生きよ里に移りて」（曲が付いている）を歌い、天突き体操（ラジオ体操の代わり）をして、乾布摩擦を肌が赤くなるまでしてから朝食。

学年別に授業。机が足りない者は畳にござでノートをとる。寺子屋式だ。授業はだいたい午前中、午後は自習、時々十国峠の方に登って燃料にする薪とり。食糧事情が悪くなりご飯は麦飯が茶碗一杯、昼は味噌汁にうどん粉のすいとん、育ち盛りにはいつも腹ペコ。

3月になり6年生が去り4月上級生になった。3月10日、5月25日東京大空襲、東の空が真っ赤だった。我が家も焼けた。8月15日終戦、ラジオ放送の詔勅は解らなかった。大人達が泣いていた。

日本が負けた！日本は神国だ、必ず神風吹いて勝つのだ。そう教育されてきた。信じられない！

でも家に帰れる、親の所へ嬉しいよ。

私は5人兄弟の末っ子ですぐ上の姉とは9歳も離れている。可愛がられて我儘に育った。疎開生活の中で親元を離れ他人の中で揉まれ、我儘も言えず我慢も出来た。少しは成長した経験かも知れない。

でもあの辛い悲しい思いは我が子にはさせたくないと思った。

今世界では戦争好きの指導者により、親を亡くしたり、親と離れ離れにさせられている子どもたちが多くいる。またミサイル発射場に娘を連れて行き、手を叩いて喜んでるバカ親もいる。

そんな奴らに天誅を加えたい。

2023 年を振り返って

多摩・田園 石井 武則

コロナウイルス禍で 2020 年から 2022 年までの 3 年間、行動制限があり思うような活動ができませんでした。2023 年になりようやく下火になり、出かける機会も増えました。そこで、この 1 年で起きた私自身に関係する出来事を記述することにしました。

2020 年 5 月号の「会員だより」で「新型コロナウイルス禍余話」と題して同年 4 月に予定されていた「E 先生を囲む会」が休止となったことを悔いた記事を寄稿しましたが、昨年 4 月にやっと実現しました。中学卒業以来 64 年ぶりに E 先生にお目にかかったのですが、先生は 91 歳 7 か月というお年にもかかわらず、顔の色艶も良くメモを見ながらでしたが立ち上がってご挨拶をされる程お元気でした。私のことは覚えておられませんでしたでしたが親しくお話をすることができ感激しました。この会には 13 名が出席しましたが、半数以上の方とは 64 年ぶりだったので顔と名前が一致しませんでした。なお、会場の関係で席の移動が思うようにできず、前左右の方以外とは話ができず残念でした。

旅行は 2019 年 11 月以来で、3 つのツアーに参加しました。4 月に 3 泊 4 日の「紀伊半島 9 つの世界遺産巡り」というツアーで二見浦、伊勢神宮、熊野三山、那智の滝、潮岬、高野山などを見物しました。熊野三山、那智の滝、高野山は大学生の時以来、潮岬は初めてでした。

9 月には 1 泊 2 日の「京都迎賓館参観と京都 3 つの特別参観」というツアーで、天龍寺、仁和寺、東寺、京都迎賓館、京都御所を参観しました。特に京都迎賓館は 2005 年開館で地下 1 階、地上 1 階の鉄筋コンクリート造の日本建築の粋を集めた素晴らしい建物で皆様も是非一度ご覧になったらいかがでしょうか？

11 月には 2 泊 3 日の「7 つの秋の彩りを巡る錦秋の九州」というツアーで、佐賀県の祐徳稲荷神社、御船山楽園、唐津鏡山展望台、環境技術の森、九年庵、長崎県の寿福寺、九十九島シーリゾート、福岡県の清水寺本坊庭園、熊本城を見ました。紅葉は夏の暑さと水不足のせいか枯れた葉や色づきの悪い木も見られ期待した程の美しいものではありませんでしたが、十分目を楽しませてくれました。熊本城は震災の後の傷跡がまだ多く残されていましたが、天守閣は完全に復旧し、美しい姿を見せてくれました。石垣も大分復旧が進んでいました。「银杏城」と呼ばれているようで、そのシンボルツリーの银杏は鮮やかな黄色に色づいていました。

私が勤務した N 社と K 社の OB 会が 10 月と 11 月に 4 年ぶりに開かれ、近況を語り合うことができました。また、高校の同期会も 10 月に 4 年ぶりに開催され、気を遣うことのない楽しいひと時を過ごすことができました。

孫のうち 2 人が 4 月に公立の中高一貫校に入学したのも嬉しい出来事でした。一方、長女の配偶者の父親が 8 月に、妻の次姉の配偶者が 10 月に亡くなるという悲しい出来事もありました。

10 月にウクライナの「キーウ・クラシック・バレエ団」の日本公演があり、町田市民ホールで開催された「白鳥の湖 全 2 幕」を夫婦で観賞しました。自国では戦争のため開催できず、世界各国を回り公演を続けているそうです。その美しさに感動するとともに、ウクライナでの戦争が早期に終息することを切に願いました。

2024 年は元日から能登半島地震が発生し甚大な被害が報告されていますが、今後、平穏な日々が続くことを心から祈りたいと思います。

農園日記—じゃお農園の納会



2023年12月23日(土)、じゃお農園に集う仲間達は一年間の締めくくりとして永田農園の皆さんを招待して「納会」を行いました。「納会」は一年間の農園活動の総括と仲間達の絆を深め、日頃お世話になっている永田農園の皆さんと交流するため毎年行われています。じゃおクラブからは25名、永田農園さんからは社長以下およそ25名の皆さんが集まる一大イベントです。

食事には、竈に火を起こし、じゃお農園で採れた作物をふんだんに使って「ジンギスカン料理」と「豚汁」を作りました。燃料には永田農園の廃材を利用し、永田農園から竈3個と大鍋、鉄板をお借りして、食材の購入、調理、会場づくりは全員で行いました。



料理が出来上がると各自、鍋と鉄板から料理を皿に取り席に戻って食します。今年の「豚汁」の里芋には「八つ頭」を使いましたがたいへん好評でした。ただ切り方が大き過ぎたと言われてしまいました。楽しい懇談の時間はあっという間に過ぎて、永田農園の皆さんも満足して職場に戻っていかれました。

この日は、永田社長から少子高齢時代を迎えた日本の「苗事業の現況と将来」についてお話を伺うことができました。じゃお農園の仲間にとっても有意義な内容だったのではないのでしょうか。

こうして、無事に「納会」を終えることができ、快い疲れと達成感を味わいながら帰途につきました。



(湘南 島村 忠男 記・田邊 修 写真)

2024年1月新春そば打ち開催報告

日時：2024年1月15日（月）9時30分～12時30分 場所：海老名国分コミセン 多目的室

正月料理も食べ飽きて、そろそろさっぱりした食べ物が恋しくなって来る頃になりました。

1月15日じゃお県央で新春そば打ちを開催しました。

一人300g（そば粉240g、中力粉60g）の二八そばを全員がエプロンにバンダナキャップし手洗いをして打ちました。毎回ほぼ同じメンバーで4テーブル2名が順番に水回し⇒延ばし⇒切り⇒茹でる迄行いました。毎回ほぼ同じメンバーの為作業も慣れていてスムーズに進行しました。出来栄えは大分上達して皆同等に出来ていました。300gの内半分は持ち帰り、残り半分は調理室で試食して、これなら家に持ち帰って家族に食べさせても問題ないと確認していました。

県央の「そば打ち」は1997年に始まり、27年の歴史があります。2006年に記された資料に、医師の細川俊彦先生（当時）に伺った話として、そばの効用が記されていました。以下に資料からの抜粋をご紹介します。

「昔、出羽三山の山伏たちは、腰に蕎麦粉を下げて修行したといひます。蕎麦の団子だけを食べて100日間にも及ぶ荒行に耐えたことから、いかに蕎麦の栄養価が優れているかがわかるでしょう。又、江戸時代の医学書『本朝食鑑』には、蕎麦の薬効に関する記述が見られるし、民間療法でも、蕎麦の実をおかゆにして食べると、便秘解消に役立つとされていたとか。」

「良質の蛋白質やアミノ酸、ビタミン類のほか、ナトリウム、カリウム、マグネシウムなどのミネラル、また、血圧降下作用をもつルチンや、便秘解消に役立つ食物繊維などをバランスよく含んでいます。消化、吸収がいいので、お年寄りに向けた食品だと思います。」

参加者：鈴木（寿）・坂井・小林（嘉）・美濃部・石川・大場・新井・福山

次回：2024年3月18日（月）9：30～14：00

（県央 福山 信二 記・写真）



じゃおベイサイド

じゃおベイサイド新年会の報告

1月13日土曜日、じゃおベイサイドの新年会を鶴見駅西口にある中華料理店にて開催いたしました。ベイサイドとしては久しぶりの新年会でしたが17名の会員が集い、能登半島地震の犠牲者に哀悼の意を表した後、美味しい料理を囲み飲み放題のお酒を楽しみながら近況を語りあう新春の一時となりました。



(ベイサイド 土屋 記・写真)

じゃお多摩・田園

じゃお多摩・田園新年会レポート

1月10日(水)、「月亭」町田店にて多摩・田園の新年会を開催しました。この会場は名幹事の浅野さんが見つけた、昨年8月に暑気払いを行ったところです。上品な和食とリーズナブルな料金で好評だったので、今回も浅野さんのきめ細かい手配でここに決まりました。

今回は14名が新年を迎えた清々しい顔で参集しました。

はじめに高橋さんの年頭の挨拶と乾杯で開宴しました。新年早々に能登半島地震という不幸がありましたが、皆さんは一日も早い復興を祈り、夫々が良い年になる様に願って乾杯されたことと思います。

新型コロナは、少しずつ収束の兆しがある様ですが、まだ終息してはいません。しかしながら、宴会が聞ける様になったことは呑兵衛の私としては喜ばしいことです。



さて、宴会は飲み放題で、皆さんは徐々にピッチが上がり、あちらこちらで楽しい談笑の輪が広がっていました。

盛り上がった宴会でしたが、予定の2時間半がアツという間に経過し、山脇さんの音頭で、皆さんの健勝とじゃおの益々の発展を祈念して、恒例の三本締めでお開きとなりました。



(多摩・田園 片山 隆行 記・竹内 純一 写真)

クラシック・コンサートを楽しむ

多摩・田園では、2024年1月より生のクラシック・コンサートを聴く会を発足しました。始まりは、数年前、私が、東芝フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリン奏者である知人から演奏会に招待されたのがきっかけでした。その後、知人から「たくさんの聴衆の前で演奏したい」との思いを聞いたものですから、じゃおクラブの仲間に声をかけて、一緒に定期演奏会に通うようになりました。会を重ねるごとに仲間が集まるようになり、今では10人を超える参加者があります。

2023年11月の多摩・田園定例会で、行事の名前を付けようとの意見が出て「クラシック・コンサート鑑賞会」と名乗ることになりました。今は、招待券をいただいて年に3回程度、知人が出演する「東芝フィルハーモニー管弦楽団」と「横浜管弦楽団」の定期演奏会に出かけています。

アマチュアのオーケストラは地域や企業にたくさんあります。前出の東芝フィルハーモニー管弦楽団は東芝の社員とOBから構成されていますし、横浜管弦楽団は横浜市民で構成されています。

さて、このような経緯で発足した「クラシック・コンサート鑑賞会」ですが、2024年は1月7日に桜木町の神奈川県立音楽堂で開催された「横浜管弦楽団第65回定期演奏会」へ行ってきました。横浜管弦楽団は、比較的小さなオーケストラですが、弦の響きが良いという評判です。

この日、演奏されたのは、「ウェーバー 歌劇オペロン 序曲」、「シューベルト 交響曲 第3番 ニ長調 D200」、「ブラームス 交響曲 第1番 ハ短調 作品68」の3曲でした。指揮は鈴木 睦さんです。



特に「ブラームス 交響曲 第1番」は迫力の演奏で、観客の発する「ブラボー」の聲が飛び交い、拍手が鳴りやまず、楽団がアンコールに応じて「シューマン 3つのロマンスより 第2番」を演奏しました。（写真は横浜管弦楽団第65回定期演奏会のチラシとパンフレットです）

私は、クラシック音楽の造詣が深いほうではありませんが、生で演奏される音楽を聴くのは贅沢なことと思っています。一つひとつの楽器の音色を味わい、それが合奏として合わさった時の迫力には、どんなに高級なオーディオ装置を持ってしても敵わないのではないのでしょうか。

これからも皆様には予定表やメールでご案内するつもりです。地域の制限はありませんので、ご都合がつけば、ぜひお越しください。

（多摩・田園 竹内 純一・記・写真）